

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 高山市立 中山中学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒506-0052

岐阜県 高山市 下岡本町 2663 番地

E-mail nakayama@edu.citytakayama.gifu.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 237名 女子 243名 合計 478名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、全校 ESD テーマを「郷土を知り、郷土を愛し、進んで貢献しようする生徒の育成」と掲げ、郷土教育を活動テーマとして、「持続可能な社会(飛騨高山)」を目指しており、そのことをESDと捉え、ESDの実践を通して、地域遺産を継承する力、地域に貢献する力の育成を目標としている。

めざす姿として、地域の歴史・文化・産業を学び「知る」こと、将来に向けての問題点や課題を「つかむ」こと、自分のこれからの生き方を見つめ、郷土への提言を行い「広げる」ことを掲げて、郷土教育を推進してきた。

第1学年では「高山研修」と称して、乗鞍岳山麓の散策を通して自然環境の保護、郷土の産業を守り続ける方の話を聞くために訪問し、郷土を守る心意気や伝統の技等について学ぶ活動を行っている。

第2学年は、「飛騨に生き、飛騨を守る人々」をテーマにして、キャリア教育を軸に、企業等で働く人から「職業講話」や「職場体験学習」を実施している。

第3学年は「東京研修」を通して、「飛騨高山」と「首都東京」の産業等を学び、さらなる郷土の発展と持続を考え、地域を守る意識を育てている。

これらの活動を有機的に関連付けることによって、全校で持続発展教育を実現している。

(第1学年)

◇郷土の歴史、伝統、文化について実際に触れ、郷土に親しみをもち、郷土を大切にしようとする態度を育てる。

4月の総合的な学習の時間には、身近な地域「飛騨高山」の知っていることや祭りなどの体験したことを話し合い、各自の問題意識を高めた。また、「乗鞍研修」を行い、乗鞍岳の動植物、地形、地質などの自然生態系や自然環境を知り、乗鞍岳の保全や将来の展望、人のかかわりについて学んだ。9月～11月には、「高山研修」を行い、課題別グループで追究活動、高山祭りや地域行事等に参加し、祭りの歴史、伝統や文化について、地域の方から直接聞いたり感じ取ったりした。12月には、追究した課題をまとめ、保護者や地域の方々へ広く発信した。



乗鞍研修（ガイドの説明）



雷鳥発見の様子



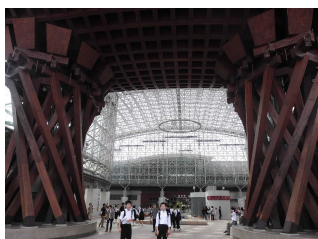
老舗旅館の方の話

(第2学年)

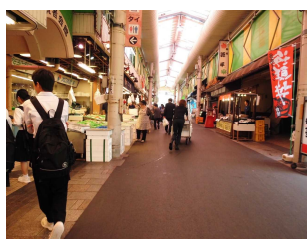
◇「金沢研修」を通して、地域の歴史や伝統文化を継承し、守り続ける人々について学び、その大切さとそれに取り組む人々の心を感じる。

◇飛騨高山地域における「職場体験学習」を通して、地元で働くとはどういうことなのか、地元で働くことの厳しさや喜び、こだわり等について学び、地域に根ざした勤労観や職業観を育む。

6月に「金沢研修」を行い、飛騨高山以上に大規模に伝統的工業が盛んで歴史的な町並み保存をする金沢の取り組みを知り、その保存や継承をする人について学んだ。10月には、飛騨高山の地元の企業や公共施設などの職場体験学習を通して、飛騨地域への温かい思いやこの地域で働くことの厳しさや喜びについて学んだ。12月には、飛騨地域を守り、飛騨地域で働き、生きていくことについて、一人一人が追究した課題をまとめ、保護者や地域の方々へ広く発信した。



金沢研修（金沢駅）



金沢研修（近江町市場）



職業講話

(第3学年)

◇1、2年生で学習してきた「郷土学習」と首都・東京を比較して見つけた、郷土・高山についての課題の答えを見つけ、地域に対して発表をし、郷土に対する愛情を育てる。

4月に首都・東京について自然環境、人口、交通、産業、文化、生活等について学んだ。5月～6月には、修学旅行や事前事後の学習を通して、飛騨高山と比較しながら、郷土・飛騨高山についての課題を設定し、個人追究をした。7月には、課題追究したことをまとめ、保護者や地域の方々へ発信した。12月には、郷土・高山についての課題、郷土の将来に対する自分なりの思いをまとめ、保護者や地域の方々へ発信した。



東京研修（関取インタビュー）



東京研修（パラリンピック選手との交流）



高山研修（高山祭りのインタビュー）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	□ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	□ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

【教具・教材】

高山市内観光地図、方位磁石、カメラ、ビデオカメラ（インタビュー、取材用）
東京都観光地図、乗鞍岳・五色が原地図、ルーペ、顕微鏡、収集網、軍手
飛騨高山の生活、産業、文化、祭り（DVD）、飛騨の自然環境（DVD）、
首都東京（DVD）

【書籍】

ひだの散歩道No.1～22 飛騨地域活性化推進協議会(2002～2008年)
ポプラディア情報館 伝統工芸 ポプラ社(2006年)
日本の高原植物 山と溪谷社(1998年)
高山に咲く花 山と溪谷社(2014年)
ポプラディア情報館 郷土料理 ポプラ社(2009年)
統計・資料でみる日本地図の本 岩崎書店(2008年)
都道府県別 日本の伝統文化 国土社(2014年)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

【第１学年】

総合的な学習の時間（５０時間）の取り組みを中心として、国語、社会、理科の関連内容と結びつけながら実施する。

【第２学年】

総合的な学習の時間（７０時間）の取り組みを中心として、国語、社会、理科の関連内容と結びつけながら実施する。

【第３学年】

総合的な学習の時間（７０時間）の取り組みを中心として、国語、社会、理科の関連内容と結びつけながら実施する。

◇生徒一人一人が、「主体的・対話的・深い学び」になるように、自分で課題を見つけ、克服する「課題追究型」の取り組みにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「総合的な学習の時間」を軸に、各教科との横断的な取り組み、行事とのコラボレートをしてより合理的でかつ能率的に取り組んでいる。また、学校、教職員だけにとらわれずに地域との連携を大切にしながら推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

【職員評価、及び外部評価より】

（成果）

- ・金沢研修や職場体験などを通して、高山の郷土意識を高めることができた。
- ・高山研修等の各研修に始まり、郷土に根差した学習ができた。
- ・３年間を見通して、実践してきたことで、生徒たちも発表するパターンを創り上げたことで、スムーズに進めることができた。

（課題）

- ・生徒の取組に個人差がある点を改善していきたい。
- ・「総合的な学習の時間」の一貫性、系統性がみえない。本校の「総合的な学習の時間」の目指す方向がみえない。（職員の間での共通理解が図られていない）
- ・郷土教育はとても大切なことではあるが、これからの時代を生きる生徒たちに、郷土教育だけで十分かは疑問が残る。
- ・地域からのヒントはいただいたが、「共に」課題解決に向かっている感じではない。
- ・出口としている総合発表会のあり方を考えていく必要があると思う。
- ・２年生の職場体験を「郷土の良さ、郷土の人々の生き方に学ぶ」「地域の課題を地域の人々と共に解決する」ことにつなげることが難しい。
- ・昨年度の良さが継続されていないのが残念

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

1 学年は「高山研修」「乗鞍研修」、2 学年は「金沢研修」「キャリア教育」、3 学年は「東京研修」で「持続可能な社会」を作る意識を作ることができた。追究した課題をまとめ、また、得た成果を 12 月には、「成果発表会」を開催し、保護者や地域の方々へ広く発信し、これらの取り組みを今後も続けて欲しいという感想をいただいた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特段、協働・交流・ネットワークの形成は整えていない。しかし、地域に「子ども教育参画会議」という地域の子どもの学校・家庭・地域が連携して育てることを目的に立ち上がった会「子どもと地域を語る会」があり、その団体との協働は考えている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

現在、高山市の全ての小学校・中学校がユネスコスクールの登録を目指しており、中には本校と類似している活動をしている学校があり、そうした学校との交流を真っ先にすることを考えている。この交流が継続し位置づいたら、国内外のユネスコスクールとの交流やネットワークの形成は考えていきたい。

※チェック事項 2-4 に対応

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

3 学年による「東京研修」において、2020 年の東京オリンピックに向けての取り組み等の取材は今しかできない。中でもウィルチェアラグビーのパラリンピック選手「官野一彦氏講演会」を聴けたのは大変貴重であった。

(3) 平成 30 年度の活動計画(200~400字程度)

平成 29 年度に引き続き、全校 ESD テーマを「郷土を知り、郷土を愛し、進んで貢献しようとする生徒の育成」を掲げ、郷土教育を軸に、「持続可能な社会(飛騨高山)」を目指す。

第 1 学年では、地域の歴史・文化・産業を学び「知る」こと、将来に向けての問題点や課題を「つかむ」こと、第 2 学年では、自分のこれからの生き方を見つめ、郷土への提言を行い「広げる」こと、第 3 学年では「飛騨高山」と「首都東京」の産業等を学び、さらなる郷土の発展と持続を考え、地域を守る意識を育てる。

地域への貢献感、課題解決の達成感を味わわせる活動をさらに取り入れる活動を考えたい。また、高山市が「平和都市宣言」を掲げ、地域づくりを推進しているため、平和教育を計画に取り入れたい。また、人間関係の希薄化が進み、コミュニケーション力の低下も懸念されるため、他者理解をすすめる人権教育もさらに進めたい。